

令和4年12月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和4年12月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

東京青森県人会が主催する青森県の食や文化、観光といった魅力を首都圏に紹介する「^{あおもりびと}青森人の祭典」が11月9日、10日の2日間の日程で、3年ぶりに東京・上野公園で開催されました。

会場に並んだ24の出店ブースの中でも、八戸前沖さばの串焼きと八戸せんべい汁が特に人気で、午前中から行列が絶えず、ステージでは参加自治体のPRや津軽三味線の演奏などが行われました。

会場内には、修学旅行生や外国人観光客の姿もみられ、各地自慢の一品を買い求める来場者でにぎわいました。

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸12月号 レポート

令和4年11月の八戸市内での出来事や
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	八戸市美術館 開館1就任 来館10万人一定の存在感
(2)	自衛隊敷地利用 初の訓練八戸市、津波想定で避難
(3)	八戸、苫小牧市 事業計画決定 来年フェリー航路開設50周年
(4)	八戸にコールセンター スポーツエンターテイメント(大阪) 誘致認定、50人雇用見込む
(5)	JR陸奥湊駅前 八戸市魚菜小売市場 プレオープン

【産業】

記事	概要
(6)	八食ECサイト強化へ 立教大生チーム新たな仕組み模索
(7)	八戸酒造 新酒の仕込み本格化 数量限定品販売へ
(8)	八戸でセンキュウ栽培開始 薬用作物、県内初
(9)	「青森みちのく銀行」に 新行名、地域性を重視
(10)	全国水産加工品総合品質審査会 赤酢しめさば(八戸・ヤマヨ) 最高賞
(11)	来年6月に国際クルーズ船 八戸港に初寄港

【地域】

記事	概要
(12)	八戸 食用菊「阿房宮」収穫ピーク 大輪 最高の出来
(13)	はちのへ菊まつり開幕 大ぶりの花 多種多様
(14)	八戸にゲストハウス開業 鈴木美朝さん 人の出会い紡ぐ場所に
(15)	JR陸奥湊駅内「駅ナカ酒場」オープン 料理や地酒、弁当販売も

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	高橋靖さん(八戸出身) 復興支援演奏会 ピアノの音色 優美にひびかせ
(17)	直木賞「月の満ち欠け」 原作主要人物、八戸出身の設定
(18)	県レスリング協会 伊調さん招き強化練習 中高生ら一流の技体感
(19)	令和4年度八戸市スケート教室 高木菜那さん 直々指導
(20)	櫛引遺跡(八戸) から出土83点 深鉢形土器など国重文に

【行政】

記事	概要
(1)	<p>八戸市美術館 開館1就任 来館10万人一定の存在感</p> <p>八戸市美術館が、11月3日で開館1周年を迎えた。同館はこの1年、開館記念展をはじめ、4つの企画展と収蔵品を紹介する二つのコレクション展を実施。無料スペース「ジャイアントルーム」を活用した音楽ライブを開催するなど、展示と連動した企画なども数多く展開。コロナ禍の中での運営を余儀なくされたが、今年10月末には年間目標を上回る来館者10万人を達成した。市の文化振興の中核、にぎわい創出の期待がかかる中心街施設として一定の存在感を示している。同館のアート活動を通じて人や街を育むコンセプト「アートファーム」への理解の広がりなど、市民を巻き込んだ美術館づくりの取り組みは続く。</p>
(2)	<p>自衛隊敷地利用 初の訓練八戸市、津波想定で避難</p> <p>八戸市は11月2日、陸上自衛隊八戸駐屯地と海上自衛隊第2航空群との3者合同で、自衛隊の敷地を利用した初の津波避難訓練を行った。震度6強の地震による大津波警報の発令を想定。2022年度改定の市の津波ハザードマップでは、浸水区域が拡大。津波到達時間が各地で軒並み早まり、市民にはより迅速な避難が求められている。参加者は最寄りの基地まで歩き、開放される門の位置や避難にかかる時間、敷地内の一時避難場所などを確認した。3者は、2020年度に「大規模災害時における緊急避難場所等に関する協定」を締結している。</p>
(3)	<p>八戸、苫小牧市 事業計画決定 来年フェリー航路開設50周年</p> <p>交流連携協定を締結する八戸市と北海道苫小牧市は11月17日、「はちとまネットワーク会議」を開き、両市で取り組む2023年度の事業計画を決めた。両市長や職員、港湾や観光関係者らが出席。来年は八戸ー苫小牧間のフェリー航路開設50周年の節目。航路開設から半世紀を記念し、来年度は苫小牧市美術館で特集展示を開催するほか、八戸市でも関連企画の実施を検討するなど、港湾を活用した物流促進や観光誘客に向け、一層の連携強化を図る方針を確認した。</p>
(4)	<p>八戸にコールセンター スポーツエンターテイメント（大阪） 誘致認定、50人雇用見込む</p> <p>青森県と八戸市は、コールセンター事業やスポーツビジネス支援などを手がける「Sports Entertainment（スポーツエンターテイメント）」（大阪市）と事業所開設に関する基本協定を締結し、誘致企業に認定した。同社は、12月に八戸市十八日町に八戸支店を開設し、主にコールセンター事業を展開する。大阪外への進出は初めてで、約50人の地元雇用を見込む。市の誘致認定数は129件となった。</p>
(5)	<p>JR陸奥湊駅前 八戸市魚菜小売市場 フレオープン</p> <p>八戸市が大規模改修を進めていたJR陸奥湊駅前の市魚菜小売市場が11月28日、フレオープンした。1967年以来「市民の台所」として親しまれたが、老朽化に伴い、2階部分を減築して平屋にリニューアルした。営業再開は約1年8カ月ぶり。新たな市場は敷地面積1319平方メートルで、出入り口前にはイベントができる広場を設置し、場内は、食堂を囲むようなコの字型に店子を配置。地元関係者は、市民や観光客が集うにぎわい創出の拠点施設として、駅周辺の民間主体の再整備計画と連携させる形で「陸奥湊再生」につなげたい考え。</p>

【産業】

記事	概要
(6)	<p>八食ECサイト強化へ 立教大生チーム新たな仕組み模索</p> <p>八戸市の八食センターが電子商取引（EC）サイトの強化に乗り出す。八食は2019年から、観光業界に多くの人材を排出してきた立教大観光学部との連携事業に着手しており、学生が八食の活性化に向けた「観光ビジネスプロジェクト」を展開している。本年度はEC事業の強化をテーマに設定し、競争力の高いオンラインショップを目指して改善を図る。新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出控えで増加したEC部門の売り上げは、客足や観光需要の回復とともに伸びが鈍化しているのが現状。全国的にも珍しい「郊外型市場」である八食の特色を生かし、学生らは「ECと実店舗の連携」を重視した新たな仕組みを模索する。</p>
(7)	<p>八戸酒造 新酒の仕込み本格化 数量限定品販売へ</p> <p>八戸酒造で新酒造りが本格化している。酒造では蔵人が慌ただしく仕込みを進め、日本酒独特の芳醇な香りが漂っている。新酒造りは9月から始まり作業は来年6月末まで続く。一升瓶換算で約25万本を仕込む予定。同社は11月11日に「陸奥男山クラシックヌーボー（生）」と「陸奥八仙ヌーボー（おりがらみ）」、18日に「陸奥八仙ヌーボー（直汲み）」をそれぞれ数量限定で発売する。杜氏の駒井伸介常務は、今年もバランスの良い仕上がりになっているとアピールしている。</p>
(8)	<p>八戸でセンキュウ栽培開始 薬用作物、県内初</p> <p>八戸で障害者福祉と農業を手がける「シュタインズ」は11月10日、同市市川町の畑で薬用作物「センキュウ」の栽培を始めた。収穫後は医薬品製造販売大手ツムラ（東京）の関連会社が全量を引き受ける。市によると、センキュウの本格的な作付けは青森県内初めて。センキュウは婦人薬や冷え性など漢方薬の原料。冷涼な気候に向いており、国内使用量の8割は国産で北海道や岩手県などが主産地だ。市はツムラと原料調達の子会社「夕張ツムラ」（北海道）の2社と協定を結び、地域経済活性化に向けた共同研究を継続。市農業経営振興センターのほ場で昨年実施した試験栽培を経て、市がシュタインズとの仲立ち役を果たした。</p>
(9)	<p>「青森みちのく銀行」に 新行名、地域性を重視</p> <p>プロクレアホールディングス（HD）は11月11日、子会社の青森銀行とみちのく銀行の合併に伴う新銀行の名称を「青森みちのく銀行」にすると発表した。挑戦と創造のラテン語を組み合わせた造語のプロクレアがなじみにくいという内外の声を受け、地域性と分かりやすさを重視し、両行が築き上げてきた信頼とブランドを引き継ぐ名称にした。今後、新銀行のロゴやコーポレートカラーの検討などに時間を要するため、銀行名を先行して決定。会社法上では青銀を存続会社とし、みち銀を吸収合併する形を取る。合併は2025年1月1日で、同6日が初窓口営業日となる予定。</p>
(10)	<p>全国水産加工品総合品質審査会 赤酢しめさば（八戸・ヤマヨ）最高賞</p> <p>八戸市の水産加工会社「ヤマヨ」の商品「赤酢しめさば」が、第33回全国水産加工品総合品質審査会で、最高位の農林水産大臣賞に選ばれた。上北農産加工（十和田市）とのコラボ商品。サイズが大型で脂乗りが十分な国産サバを厳選し、同社が青森県内酒蔵の酒かすを使用して製造した「赤酢」で締めている。味付けには利尻昆布だしを加えており、芳醇な香りとまろやかな甘み、うま味を一度に味わえる一品。4月の発売以降、引き合いが強く、リピーターも多いという。県内のスーパーなどで販売。希望小売価格は754円（税込み）。</p>

	来年6月に国際クルーズ船 八戸港に初寄港
(11)	来年6月に国際クルーズ船が八戸港に初めて寄港する見通しとなっている。オーストラリアのシーニック・クルーズの「シーニック・エクリプス」(1万7545トン)が港の使用を予約をして商品を販売。今後、運航会社と港湾管理者の県などが合意すれば正式決定となる。シーニック・エクリプスは乗客定員228人、乗組員176人。世界各地から韓国に集まりクルーズ船に乗り込み松山市、和歌山県新宮市、静岡市など日本の太平洋側を巡り八戸市に寄港後室蘭市に出発する。関係者からは日本初寄港のクルーズ船が八戸に来れば、業界内でも注目され今後の受け入れに弾みがつくと期待の声が上がる。

【地域】

記事	概要
(12)	<p>八戸 食用菊「阿房宮」収穫ピーク 大輪 最高の出来</p> <p>三八地域でなじみの深い食用菊の主力品種「阿房宮」の収穫が本格化している。菊を手がけて60年以上の八戸市尻内町の田中敬子さんの畑では、鮮やかな黄色の大輪を次々と鎌で刈り取られる姿が見られた。刈り取り作業は10月末から始まり、11月中旬ごろまで続く見込みだ。収穫した花は蒸して乾燥させ、干し菊として出荷する。田中さんは、「味も香りも上々。湯がくときに酢を少し入れると色がよくなる」とアドバイスする。</p>
(13)	<p>はちのへ菊まつり開幕 大ぶりの花 多種多様</p> <p>「第51回はちのへ菊まつり」が11月5日から7日まで同市三日町の「はっち」とマチニワで開催された。市と「八戸市を緑にする会」が市民の花である菊をテーマに主催。例年期間中に1万人以上が訪れる人気イベントで、大小360点余が展示された。関係者は、今年は8月の長雨が心配されたが、9月以降は天候が回復し菊もよく育ったという。遅咲きの分だけ、花は大ぶりで力強いと出来栄えに太鼓判を押す。会場には、八戸市発祥の奥州菊をはじめ、福助、切り花、懸崖などの多種多様な力作が展示され、来場者を魅了した。</p>
(14)	<p>八戸にゲストハウス開業 鈴木美朝さん 人の出会い紡ぐ場所に</p> <p>八戸市吹上に築40年の空き家を改修したゲストハウス「トセノイエ」が誕生した。オーナーは十和田市出身で東京から今春、Uターンした鈴木美朝(みのり)さん。大学進学に伴い上京し、米国ペンシルベニア州への留学経験もある鈴木さんは、かつて曾祖母のトセさんが暮らした家を、国内外の旅人や地域住民が気軽に集える場所へとよみがえらせた。人と人との出会いや縁を紡ぎ、交流を生み出したいと運営する。6畳3部屋で、内1部屋が共有スペースで室内の原型はできるだけ残し、レトロな家具、地元の伝統工芸品などを配置し青森らしさも表現している。宿泊料は貸し切りで1泊2万円(最大6人まで)。相部屋利用は1人1泊5千円。</p>
(15)	<p>JR陸奥湊駅内「駅ナカ酒場」オープン 料理や地酒、弁当販売も</p> <p>八戸市湊町のJR陸奥湊駅1階に11月28日、飲食店「駅ナカ酒場 62371◎(ムツミナト)」がオープンした。店舗はこれまで観光案内所や飲食店が入居していたスペースに構えた。民間主導の再整備構想の一環で、事業主体となるまちづくり会社「みちのくみなと未来」が運営する。地元の新鮮な海産物を使った料理や地酒を提供するほか、総菜や弁当も販売する。席数は15席で観光客らが気軽に立ち寄れるよう全席立ち席とした。同社は、東北新幹線を活用し、地元の実産物や土産品を首都圏に配送する事業も展開しており、店に拠点機能も持たせ、来店客の利用促進を図る。同日、駅前プレオープンした市魚菜小売市場と連携を図り、陸奥湊エリアの再興に向け、情報発信にも力を入れる。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	<p>高橋靖さん（八戸出身）復興支援演奏会 ピアノの音色 優美にひびかせ</p> <p>八戸市出身のピアニスト高橋靖（きよら）さん＝東京都在住＝が11月6日、都内の練馬区光が丘美術館でリサイタルを開き、優美な音色を響かせた。東日本大震災からの復興支援を銘打って2011年から開催している。同日は、数々の絵画に囲まれた趣深い雰囲気の中、シューベルトの「楽興の時」やリストの「ラ・カンパネラ」などの名曲を披露し、5歳から90歳まで幅広い年代の聴衆約60人を魅了した。会場には募金箱を設けて義援金を募った。</p>
(17)	<p>直木賞「月の満ち欠け」 原作主要人物、八戸出身の設定</p> <p>12月2日から公開の佐藤正午さんの直木賞受賞作を映画化した「月の満ち欠け」の試写会イベントが東京都内で開かれ、俳優の大泉洋さん、柴咲コウさん、伊藤沙莉さんらが登場した。順風満帆な人生を送っていたものの、不慮の事故で妻子を失った八戸市出身の男（大泉さん）を主人公とした、“生まれ変わり”がテーマのラブストーリー。大泉さんは、柴咲さんと仲むつまじい夫婦役を演じる。原作の「月の満ち欠け」（岩波書店）は、八戸市出身の坂本政謙（まさのり）さん（現岩波書店社長）が編集を担当した。夫妻と主要人物は同市出身の設定で、「いちご煮」「南部弁」「八戸高校」などが作中に登場する。</p>
(18)	<p>県レスリング協会 伊調さん招き強化練習 中高生ら一流の技体感</p> <p>青森県レスリング協会は、11月12、13日の両日、八戸市武道館で競技力向上に向けた強化練習を行った。2026年に青森県で開催予定の第80回国民スポーツ大会に向けた選手育成や、指導者のレベルアップなどを目的に開催。女子で五輪4大会連続金メダルの伊調馨さん（同市出身、ALSOK）が講師を務め、練習には八戸工大一高や八戸学院光星高レスリング部の生徒、レスリングクラブ「八戸クラブ」に所属する中学生ら計約30人が参加。伊調さんは自分の練習法や意識していたことを伝え、自ら手本を示しながらアドバイスした。参加した選手らは超一流の技を肌で学びながら汗を流した。</p>
(19)	<p>令和4年度八戸市スケート教室 高木菜那さん 直々指導</p> <p>八戸市は、11月13日、2018年平昌冬季五輪で2個の金メダルを獲得し、今年4月に現役を引退した高木菜那さんを特別講師に招き、YSアリーナ八戸でスピードスケート教室を開催した。2015年度から、小中学生のスケート競技人口の増加と競技力の向上を図るため実施している「氷都八戸パワーアッププロジェクト」の一環。参加者は、習熟度別に六つのグループに分かれ、憧れの選手からの指導に目を輝かせながら、真剣に耳を傾けた。高木さんは「八戸には良いリンクがあるので、大人も含めて皆さんでスケートを楽しんでほしい」と話した。</p>
(20)	<p>櫛引遺跡（八戸）から出土83点 深鉢形土器など国重文に</p> <p>国の文化審議会は11月18日、八戸市の櫛引遺跡から出土した「深鉢形土器」など83点を重要文化財（考古資料）に登録するよう永岡桂子文部科学相に答申した。出土品は縄文時代草創期後半（約1万1千年前）のもので、1997年の馬淵川右岸の発掘調査で見つかった。縄を押しつけ模様を付けた「多縄文系土器群」に属する深鉢形土器は完全形に近く、大きさは最大口径28.3センチ、高さ26.3センチで、多縄文系で復元できたものとしては国内最大。草創期の土器は希少で、全体の形が分かるほどの破片が残っているのは珍しく、当時のくらしぶりなどを知る貴重な資料となる。登録されれば、重要文化財としては青森県内56件目、市内9件目となる。</p>

はちのへ

ふるさと寄附金のご案内

『ふるさと寄附金』で八戸を元気に!

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただいております。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください!



ふるさと寄附金の3つの魅力

① 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

② 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)

③ お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 松橋 大輔 [主事] 前田 哲 [事務員] 浜井 章代

申込み方法

郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

市ホームページ



インターネット

- 下記2つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス

楽天ふるさと納税



送付先

八戸市 広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

※担当部署が住民税課から広報統計課に変わりました。

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。